

ICMIF

ヒルデ・フェルナイレン ICMIF 会長
(P&V 社 CEO)

シヨーン・ターバック ICMIF 事務局長

数字で見る世界の協同組合/相互扶助の保険組織 (2014年現在)

8兆3,000億
USDドル

総資産



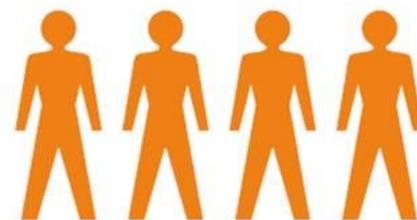
111万人

職員/従業員数

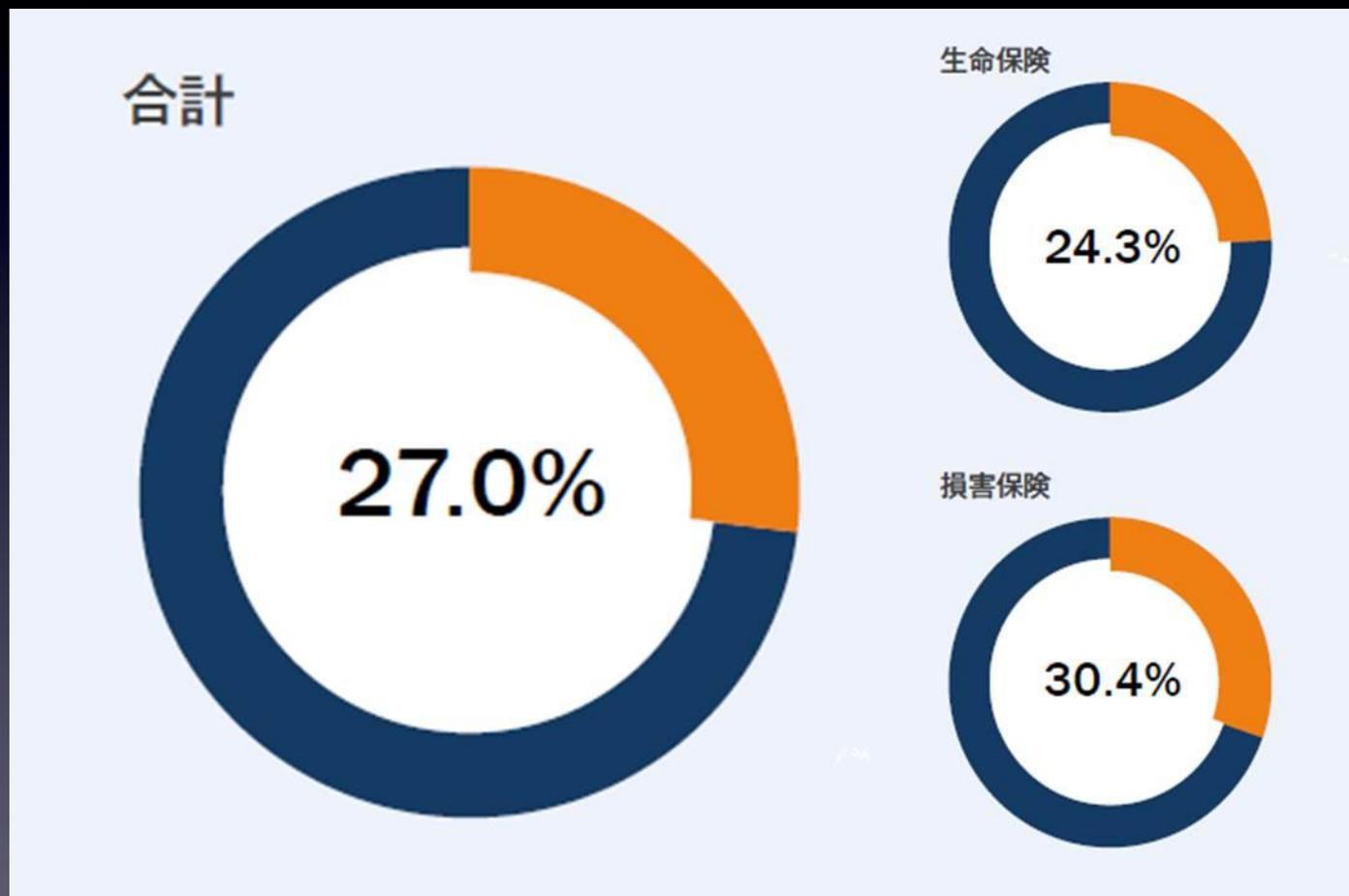


9億5,500万人

組合員/利用者数

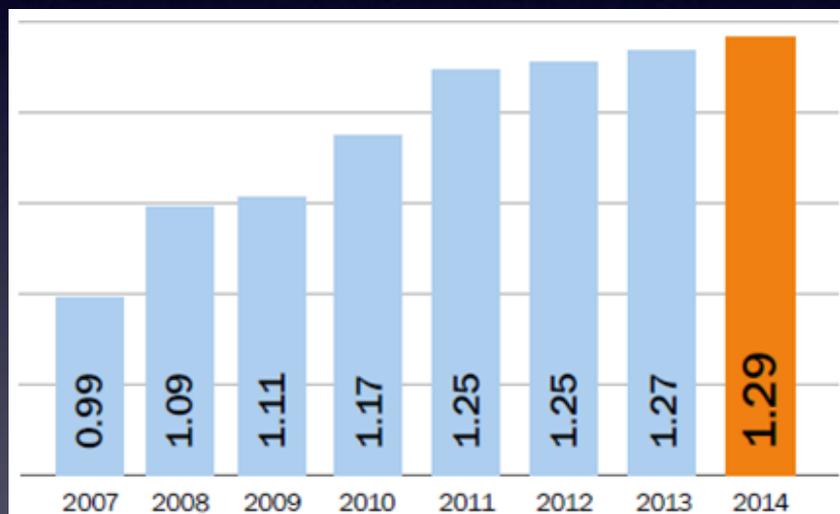


数字で見る世界の協同組合/相互扶助の保険組織 (市場占有率)



数字で見る世界の協同組合/相互扶助の保険組織 (受入掛金・保険料収入ベース)

相互/協同組合保険の収入保険料
(単位：兆USドル)



収入保険料の伸び
(2007~2014)



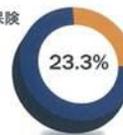
出所: ICMIF Global Mutual Market Share

- ・国際協同組合保険連合（ICMIF）は協同組合/相互扶助保険者の国際組織です。
- ・ICMIFは、協同組合/相互扶助保険者の発展を国際的なレベルで推進し、共に活動することを目的としています。そのため、会員団体に最先端の情報やサービスを提供し、世界全体の協同組合/相互扶助保険者の利害を代表する活動を行っています。
- ・世界の協同組合/相互扶助保険者は2007年以降、保険市場全体を上回るペースで成長し、世界の保険市場における占有率は、2007年の23.7%から、2014年には27%へと拡大しました。
- ・詳しくは、ICMIFのウェブサイト(www.icmif.org/ja)をご覧ください。

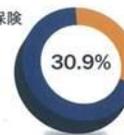
世界の保険市場におけるシェア



生命保険



損害保険



数字で見る協同組合/相互扶助の保険組織（2015年）

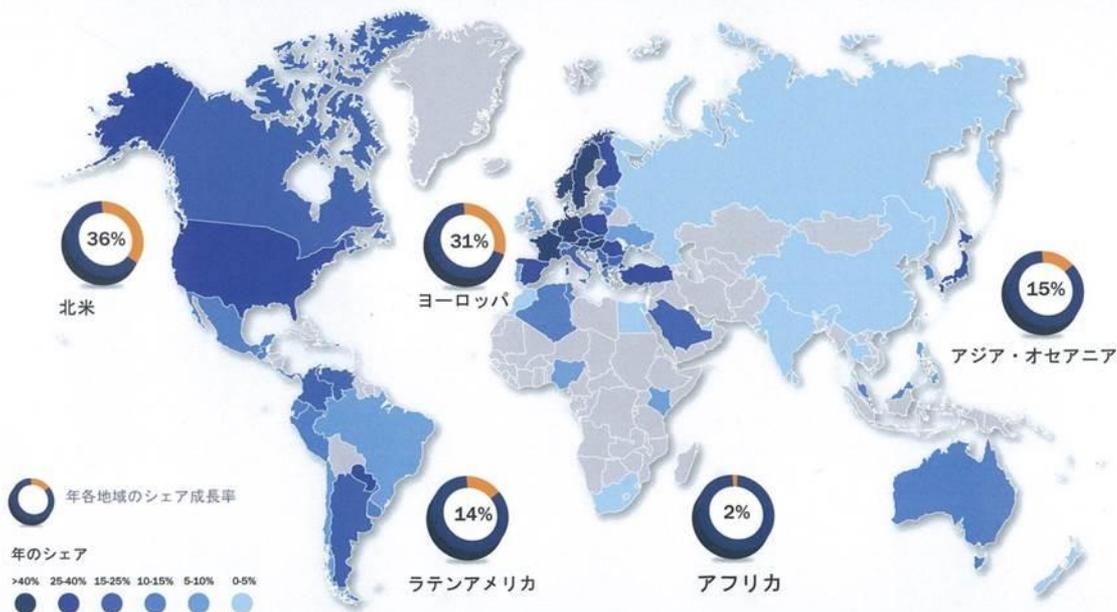
1兆2,000 億USドル
保険料収入

27.0% 世界の保険市場におけるシェア

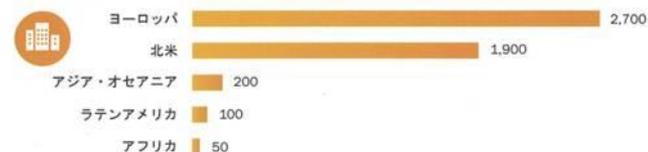
8兆1,000 億USドル
総資産

110万人
従業員数

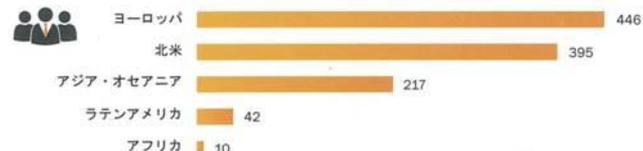
9.60億人以上
組合員/契約者数



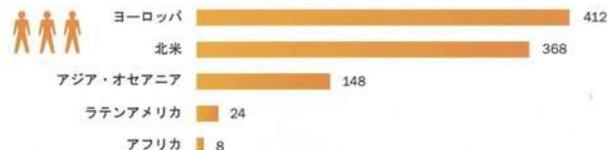
協同組合/相互扶助の保険組織の数



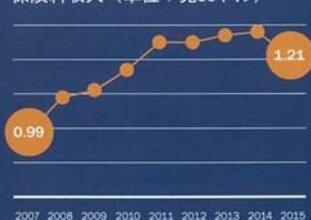
職員/従業員数の数（単位：数千）



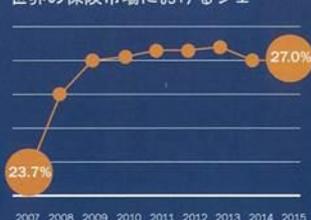
協同組合/相互扶助の保険組織の組合員/利用者数（単位：百万人）



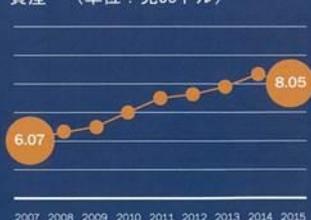
保険料収入（単位：兆USドル）



世界の保険市場におけるシェア



資産（単位：兆USドル）



職員/従業員数（単位：数千）



協同組合/相互扶助の保険組織の組合員（単位：百万人）



数字で見る世界の協同組合/相互扶助の保険組織



グローバル・ミューチュアル・ マーケットシェア 2014

グローバル500団体

- 受入掛金に基づき世界の協同組合/相互扶助の保険組織の上位500団体をランキング形式で発表
- 500団体の受入掛金合計は1.2兆USドルで、全体の96%を占める(2014年)
- ICMIFの80会員がグローバル500団体にランクイン(2014年)



2014年 世界の協同組合/相互扶助の保険組織 上位10社 (受入掛金ベース)

団体・会社名	国	組織形態	掛金収入 10億USドル	順位 2014年 (2013年)
ステートファームグループ	米国	相互	64	1 (2)
カイザーパーマネンテ	米国	非営利	63	2 (3)
全共連	日本	協同組合	57	3 (1)
日本生命	日本	相互	44	4 (4)
クレディアグリコル	フランス	協同組合	39	5 (5)
明治安田生命	日本	相互	33	6 (6)
ネイションワイドグループ	米国	相互	32	7 (8)
リバティミューチャル	米国	相互	32	8 (7)
アクメア	オランダ	協同組合	26	9 (10)
ニューヨーク生命	米国	相互	26	10 (12)

ICMIF会員 受入掛金収入ランキング - 2014

	Member	Country	Total premiums 2014 (USD '000)	
1	Zenkyoren	Japan	58,231,403	
2	Unipol Gruppo	Italy	23,616,143	
3	COVEA	France	22,094,290	
4	R+V Versicherung	Germany	18,921,208	
5	Groupama	France	13,185,127	
6	NongHyup Life	Republic of Korea	9,742,815	
7	HUK-Coburg	Germany	8,401,144	
8	MACIF	France	7,867,622	
9	Zenrosai	Japan	5,994,369	
10	Thrivent Financial	USA	5,521,735	
11	Folksam	Sweden	5,204,192	
12	MAIF	France	4,358,683	
13	DEVK	Germany	4,157,076	
14	MGEN - ISTYA Group	France	3,827,821	
15	Swiss Mobiliar	Switzerland	3,796,498	

ICA 世界の協同組合モニター

- 約2,000の協同組合/相互扶助組織のデータベース
- 合計2.8兆USドルの売上高(2013)
英国のGDPに相当
- 共済・保険部門で見ると1.3兆USドル
(全体の約44%)
- 上位300団体のうち123が協同組合/相互扶助の保険組織(41%)



ICMIFの使命

以下を通じて、協同組合/相互扶助の保険組織の成長に貢献します

- ① 協同組合/相互扶助の価値を高める
- ② 会員に高い付加価値サービスを提供する
- ③ 新しいビジネスチャンスを生み出す

ICMIF 価値(存在意義)の方程式

会員団体の
競争力向上

X

会員団体間の
協同促進

X

他のセクター
との差別化

「会員団体に競争力の源泉を提供する」

「知見を集めて、競争力を高める知恵に」

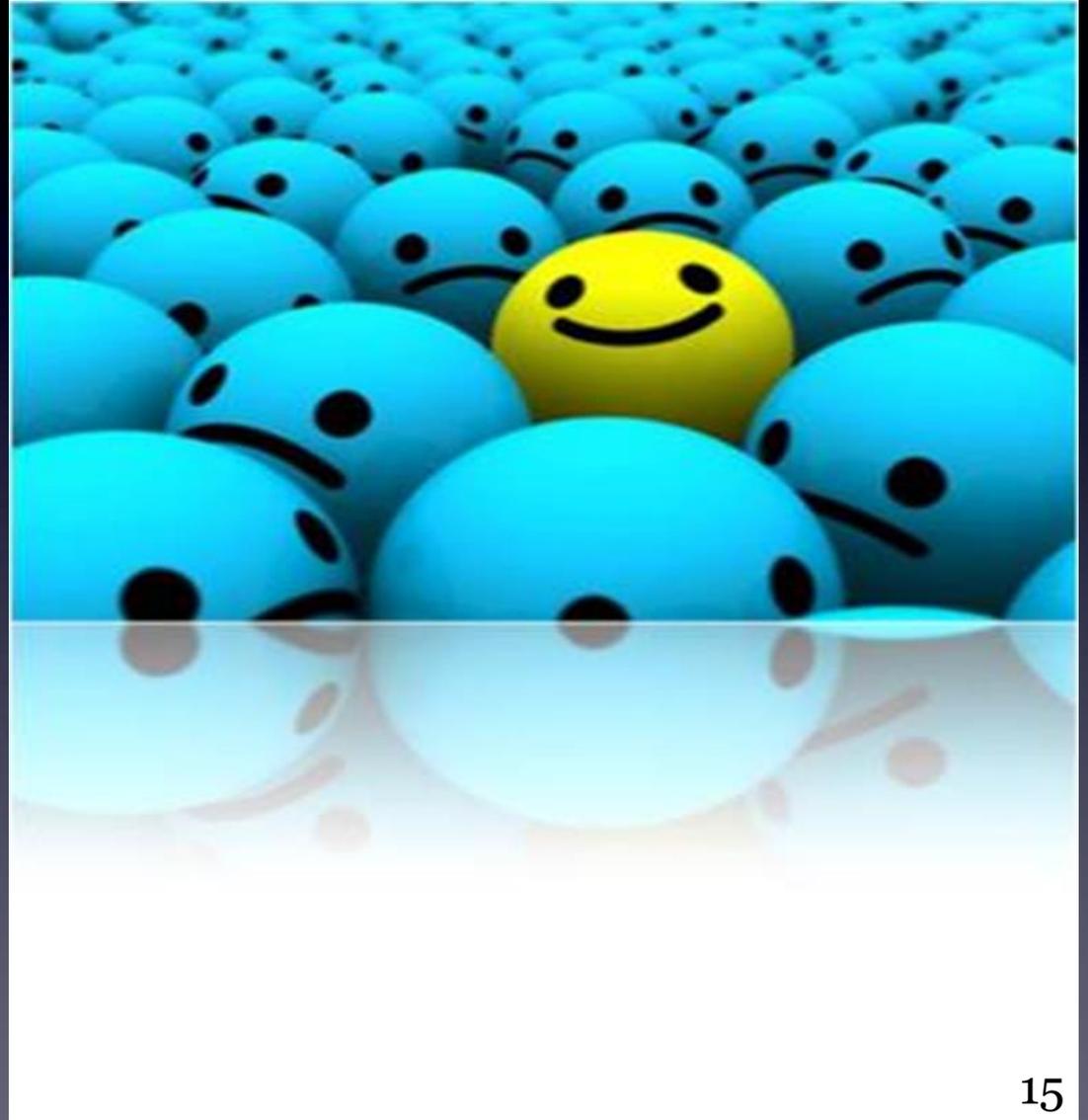
現在のICMIF戦略 2015年- 2018年

- グローバルに認められる、影響力の強いブランドを築く
- 会員のために、新たなロビー戦略と会員サービスを確立する
- 会員拡大と業界代表としての役割発揮



ICMIFだけの・・・

- ユニークさ
- 価値の付加
- 競争上の優位性
- 協同組合/相互扶助組織の価値を増大



ユニークなネットワーキング 専門家の養成機会

- 隔年総会
- 分野別会議
- リーダーズフォーラム
- 専門教育 (リーダーシップ+)
- 会員団体間の相互訪問交流

networking

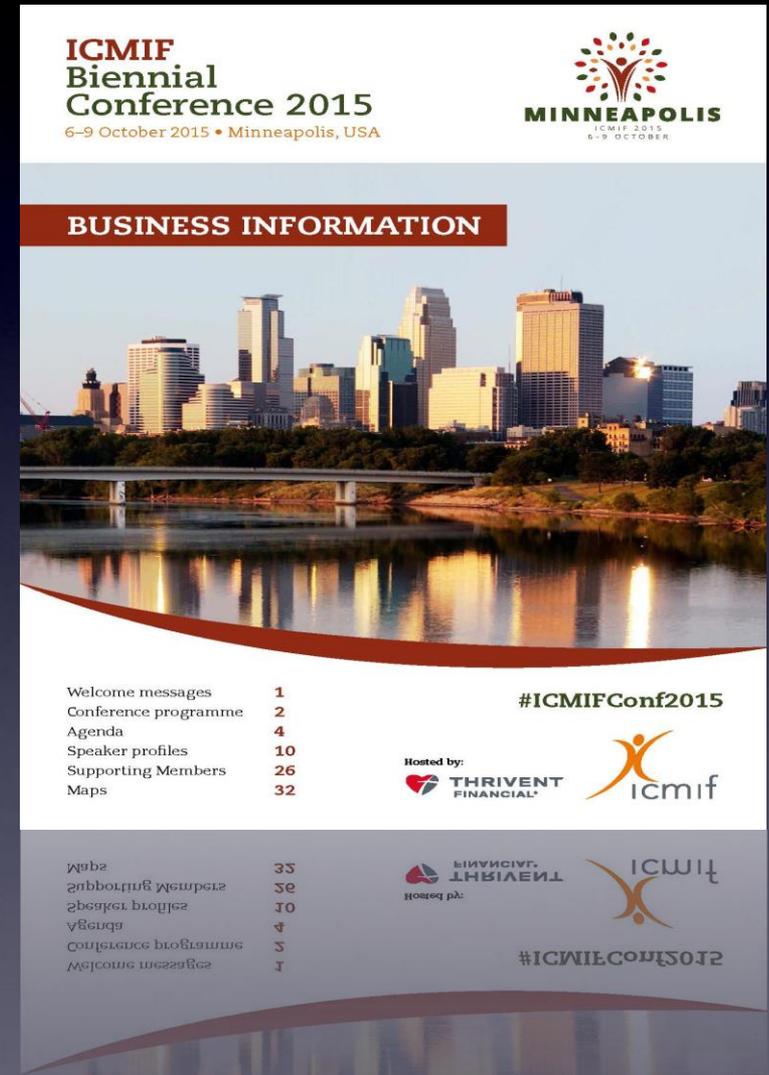
ICMIF works to ensure that mutual and cooperative insurers have the best opportunities possible to exchange information, experiences and ideas. ICMIF promotes best practice within the sector and provides an arena within which member firms can discuss issues and seek advice in a supportive environment.

2015年ICMIF総会

テーマ：

ただの保険ではありません
- 私たちの違い

- 270名参加
- 85会員団体
- 35か国
- 36%が理事長・会長職
- 80名以上のスピーカー
うち30%が女性



ICMIF
Biennial
Conference 2015
6-9 October 2015 • Minneapolis, USA

MINNEAPOLIS
ICMIF 2015
6-9 OCTOBER

BUSINESS INFORMATION

Minneapolis skyline over a river

Welcome messages	1
Conference programme	2
Agenda	4
Speaker profiles	10
Supporting Members	26
Maps	32

#ICMIFConf2015

Hosted by:
THRIVENT FINANCIAL[®]



Maps
Supporting Members
Speaker profiles
Agenda
Conference programme
Welcome messages

33
26
10
4
2
1

THRIVENT FINANCIAL[®]



#ICMIFCONF2015

2017年ICMIF総会

テーマ:

保険をリ・デザインする

- 事業戦略と組織文化に新しい考えを根付かせる
- 新興リスクをグローバルなレベルで理解しつつリスク管理をローカルに行う
- 将来を担う若手リーダーに活躍の場を与える
- 我々（協同組合/相互扶助）の方法で保険の世界をリ・デザインする
- 我々の評判を強化し、社会経済上の位置づけを確実なものにし、責任あるリーダーを目指す



地域別会議 / 専門家会議

- **ICMIF**アメリカ地域協会総会
- **AMICE**総会 (欧州)
- **AOA**総会 (アジア・オセアニア)
- **MORO** - 再保険担当者会議
- **LARG** - 再保険担当者研修
- 次世代を担う若年世代向けイベント
- コミュニケーション(広報)担当者会議
- 支払・査定担当者会議

リーダーシップ フォーラム

- 広報担当責任者フォーラム (CLF)
- 規制担当責任者フォーラム (RLF)
- リーダーシップと開発フォーラム (LDF)



「リーダーシップ+」のプログラム

シニア幹部向けコース



戦略的意思決定コース



上級管理者コース



リーダー育成コース



- ネットワーキング
- ナレッジ
- インフルエンس



ユニークなナレッジ

事業に役立つ情報提供

- ニュースレター
- 保険市場情報
- 事業戦略情報
- 会員団体動向メールニュース
(日次・月次・四半期)
- 各種ソーシャルメディア活用
(ブログ、**twitter**、**linkedin**など)
- 各種外部報告文書

Unique Knowledge

In 2013, ICMIF published more than 30 publications, most of which were exclusively for its member organizations.

As well as continuing to report on key trends in the market, ICMIF has also delved further into what makes the mutual sector unique and how its leaders differentiate themselves.

年次の情報提供

- 世界の協同組合/相互保険市場シェア
- 世界の協同組合/相互保険会社500社 (M)
- 世界の協同組合/相互保険市場図解
- 欧州保険市場情報
- 英国保険市場情報 (M)
- フランス保険市場情報 (M)
- ドイツ保険市場情報 (M)
- 米国保険市場情報 (M)
- 南米保険市場情報
- ICMIF会員団体主要統計
- ※ (M)は会員限定を示す



2016 事業戦略情報

- 女性CEO比率の図解 (国際女性デーに)
 - グローバルな評判に関する分析レポート
- 2016 (M)**
- ICMIF会員ガバナンス報告 2016 (M)
 - 協同組合/相互扶助組織による保険市場へのアクセスの図解

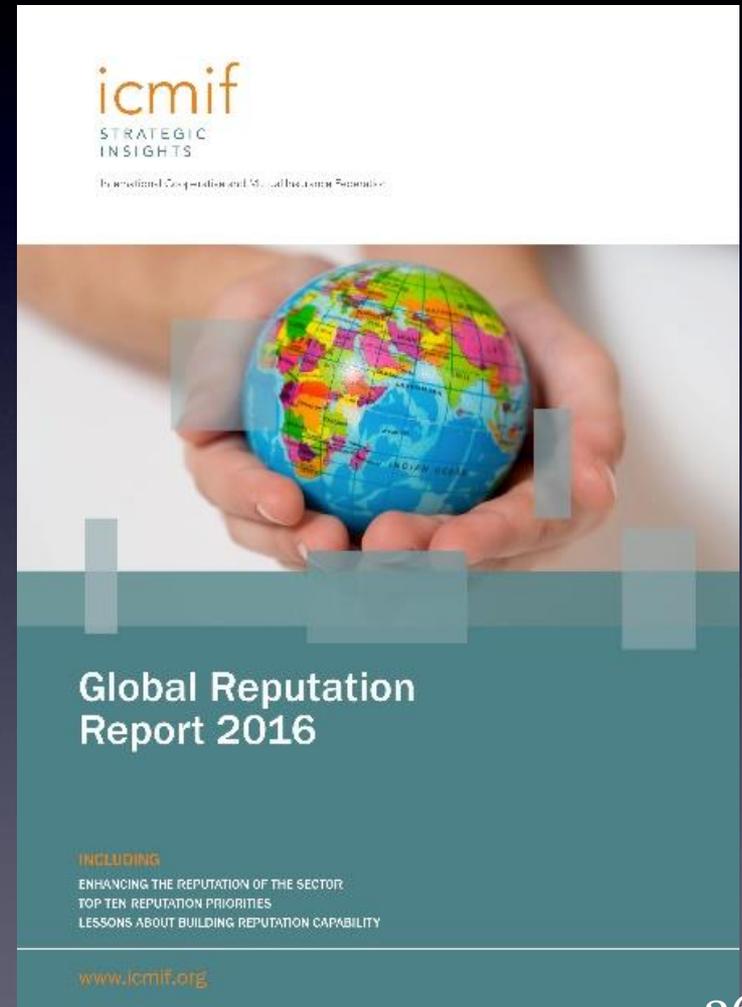


2017 事業戦略情報

- CEOインタビュー報告 (M)
- 協同組合/相互扶助組織のガバナンス優良事例
- 欧州の相互扶助保険組織の主要統計
- 相互扶助保険組織の再保険主要統計
- マイクロインシュアランスの優良事例(IDF報告)

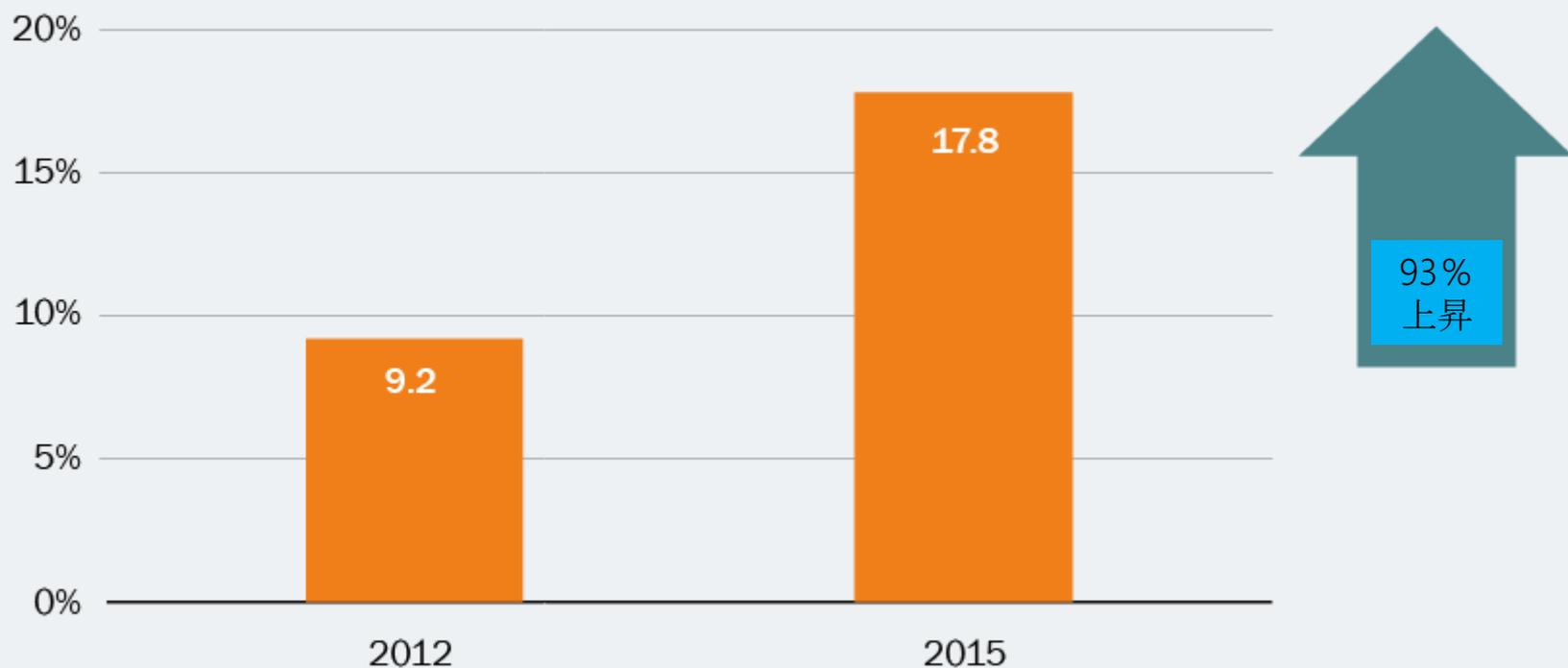
グローバルな評判に関する 分析レポート 2016

- 「重要な意見を発信している組織」との認知評価につき**2018年までに18%達成が目標** (2015年に**17.8%**達成 – 2012年対比で**93%**の増加)
- 協同組合/相互扶助組織としての差異に関する認知・理解向上 **184%**上昇
- 全体の**84%**は外部からの評価により発生
- 認知度の向上は保険料成長をもたらし、その成長率は**2013年度版時点の72%**から今回は**145%**に上昇
- 「世界の政策立案に参加している」との認知が**77%**向上



協同組合/相互扶助組織の保険セクターが 保険に関する発言全体に占める割合が上昇

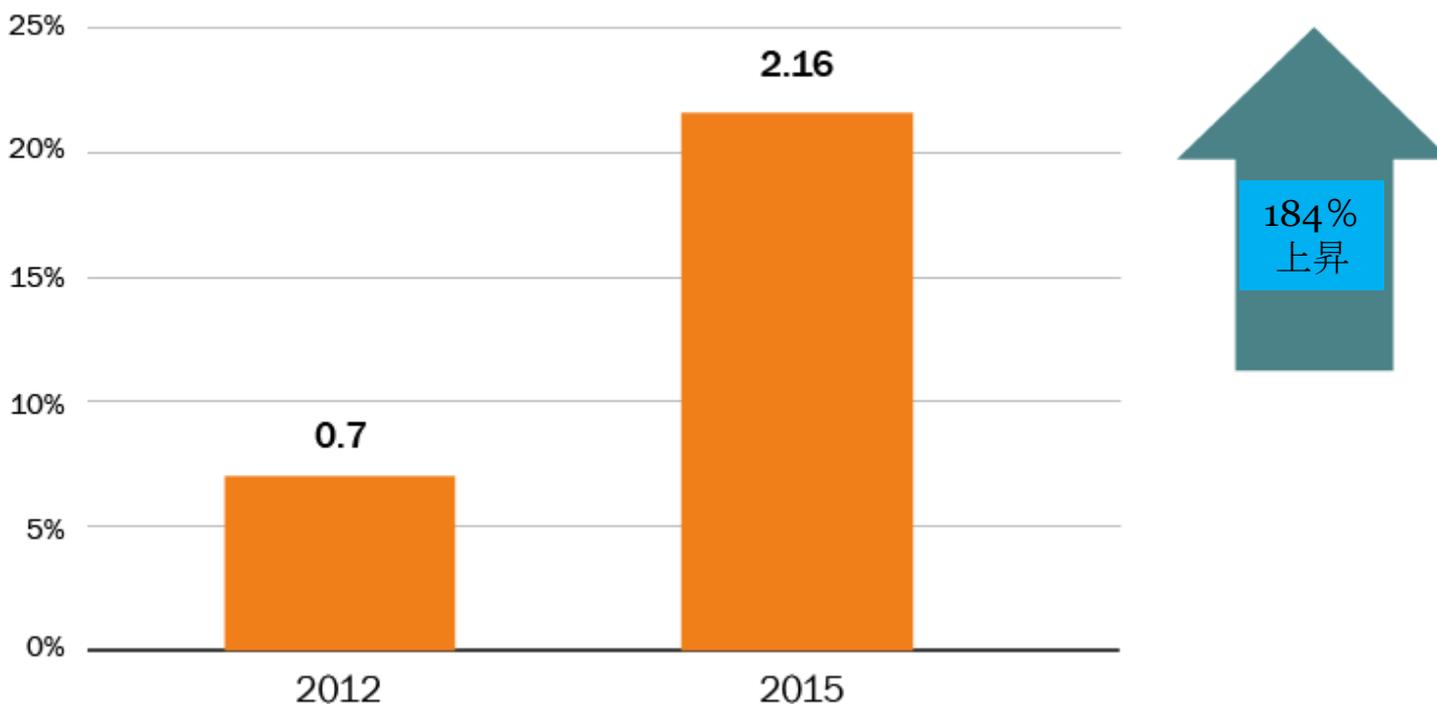
保険協同組合/相互扶助組織の保険に関する言及割合
(注目度の高いコンテンツや発言に占める割合, %)



注目度の高いグローバルコンテンツや会議などでの発言のセクターのシェアが93%上昇。

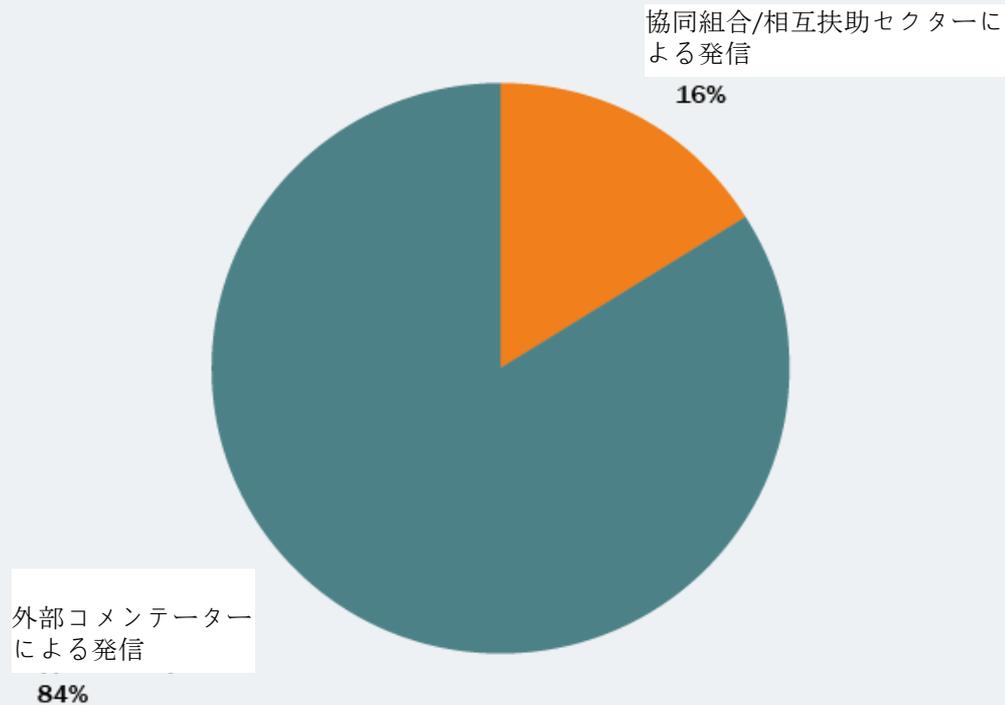
協同組合・相互組織のユニークな価値に対する認知度

協同組合/相互扶助組織の価値観への言及



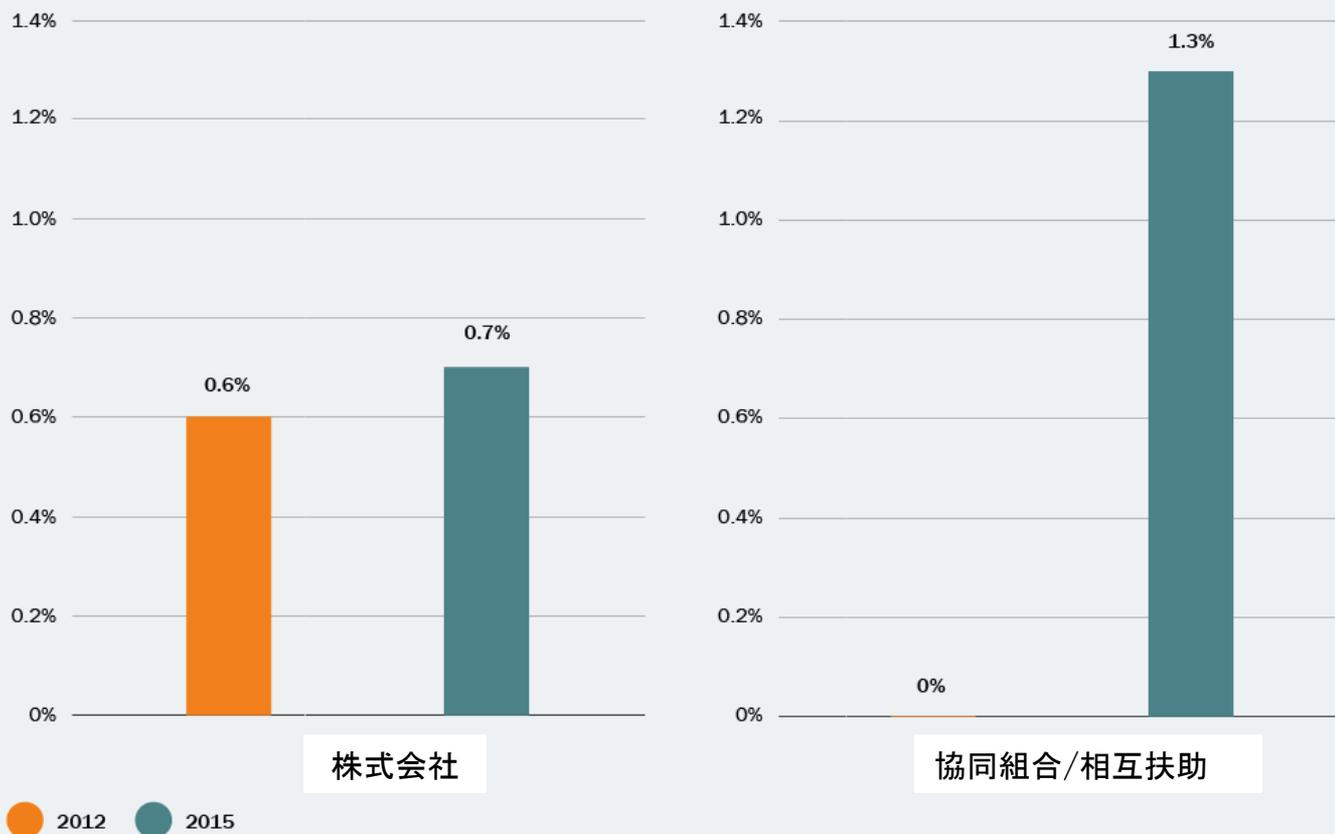
私たちのセクターの価値に対する外部からの注目度

協同組合/相互扶助組織の価値に関する言及



セクターの財務体力に関する言及

ポジティブな財務実績との関連



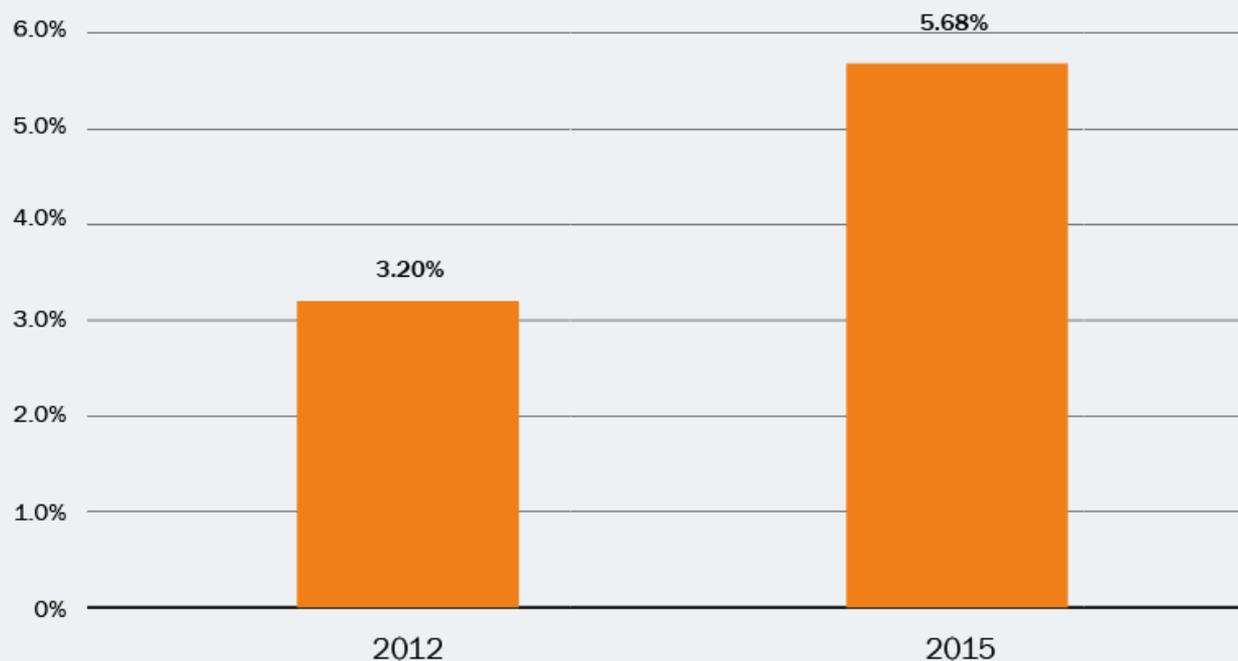
最も注目度が高い協同組合/相互扶助の保険組織は 財務面で最もポジティブな実績を示した

最も注目度が高いICMIF会員の財務実績

	保険料収入成長率
2015年 最も認知度の高い会員の実績	145.5%
2012年 最も認知度が高い会員の実績	72.2%

保険に関するグローバルに重要なトピックへの言及は顕著に観察される

保険業界に関するグローバルに重要なテーマとの関連



保険業界のグローバルな重要テーマ

ICMIFの機関誌「Voice」



ソーシャルメディア

 **Twitter: 1,250**人のフォロワー

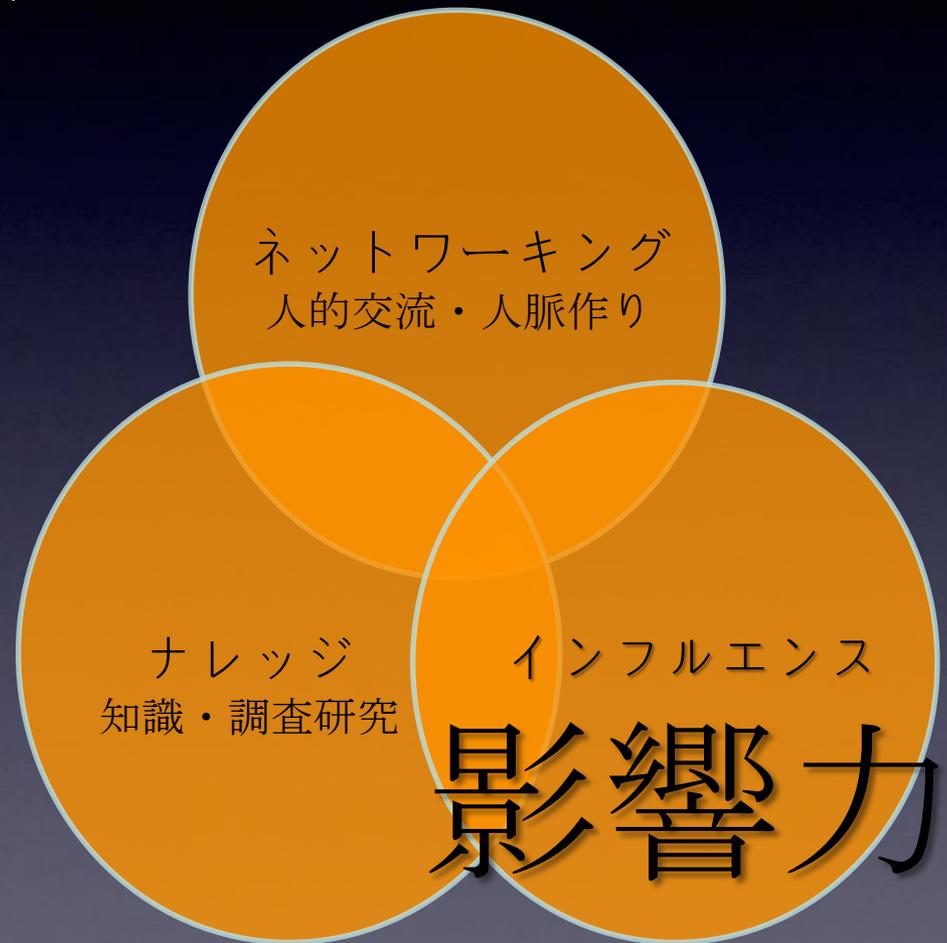
 **LinkedIn: 上級幹部層との5,000**を超えるコンタクト

- eニュース - 年間で**80**件以上の記事
- ブログ - **60**を超えるリーダーのブログ

外部機関による出版物

- スイス再保険会社報告書：21世紀の相互扶助保険会社 - バックトゥー・ザ・フューチャー
- ケンブリッジ大学：持続可能な開発のための保険規制
- AMベスト：未来を約束された相互扶助保険組織
- B20：金融成長に関する勧告書
- インシュランス・デー：思想リーダー数名による論考
- 国連(UN)報告書：民間部門における気候変動ファイナンスの動向
- 国連環境計画(UNEP)調査：持続可能な金融システム設計

- ネットワーキング
- ナレッジ
- インフルエンス



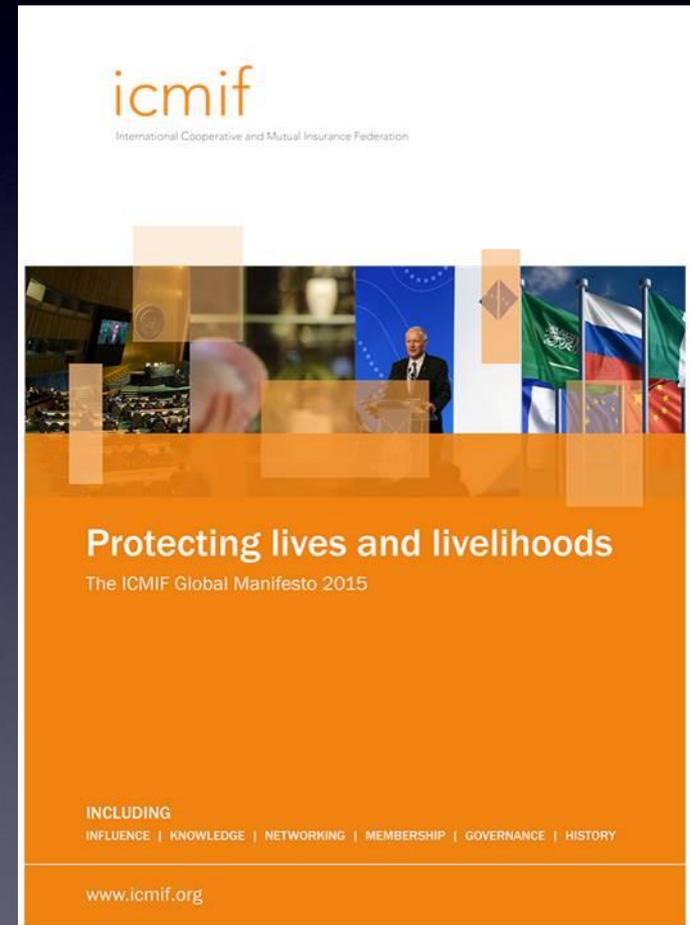
保険の規制監督について

保険は誰が規制している？

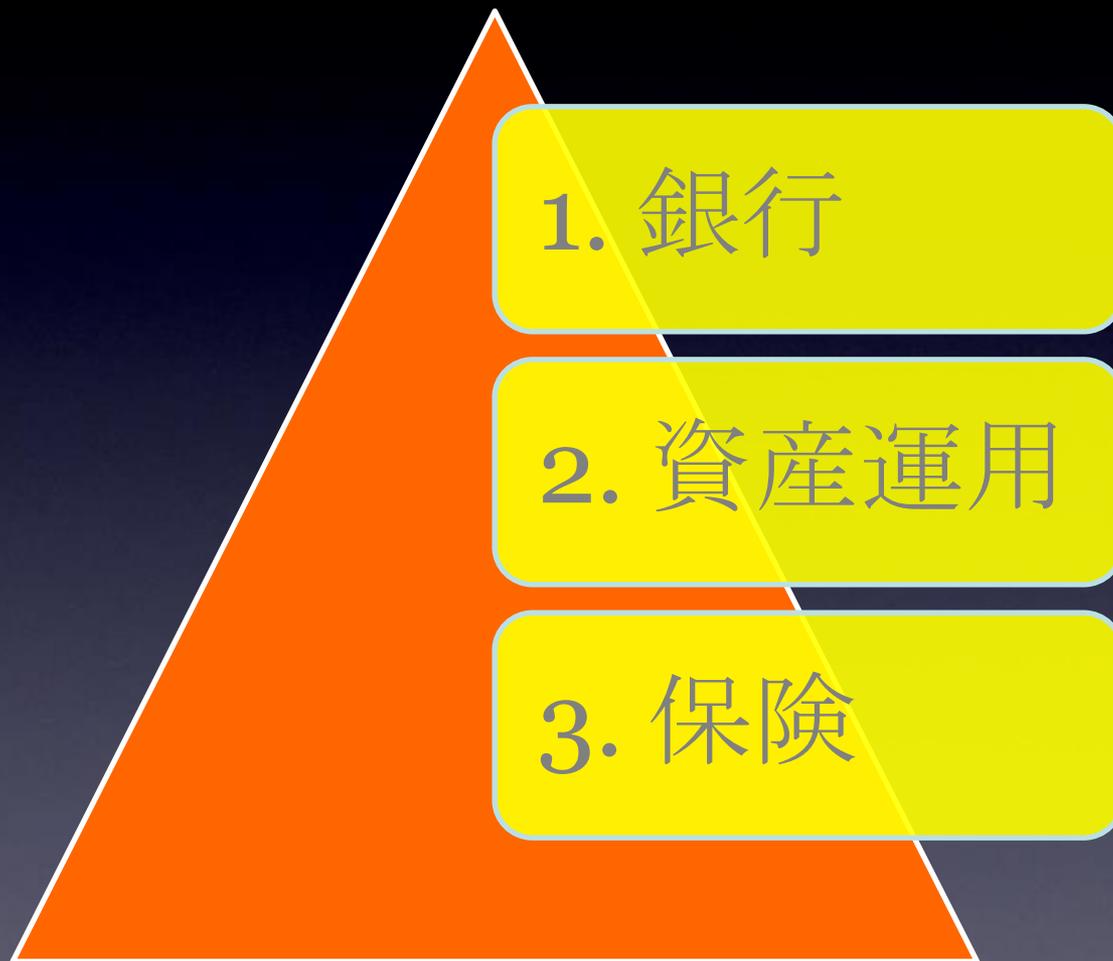
- グローバル化する規制
- **G20/B20, 金融安定理事会 (FSB), 保険監督者国際機構 (IAIS)**
- その他: 国連(UN), 世界銀行, **OECD**
- 政策当局は解決策を必要としている
- 保険業界としての要請

ICMIF

グローバルマニフェスト

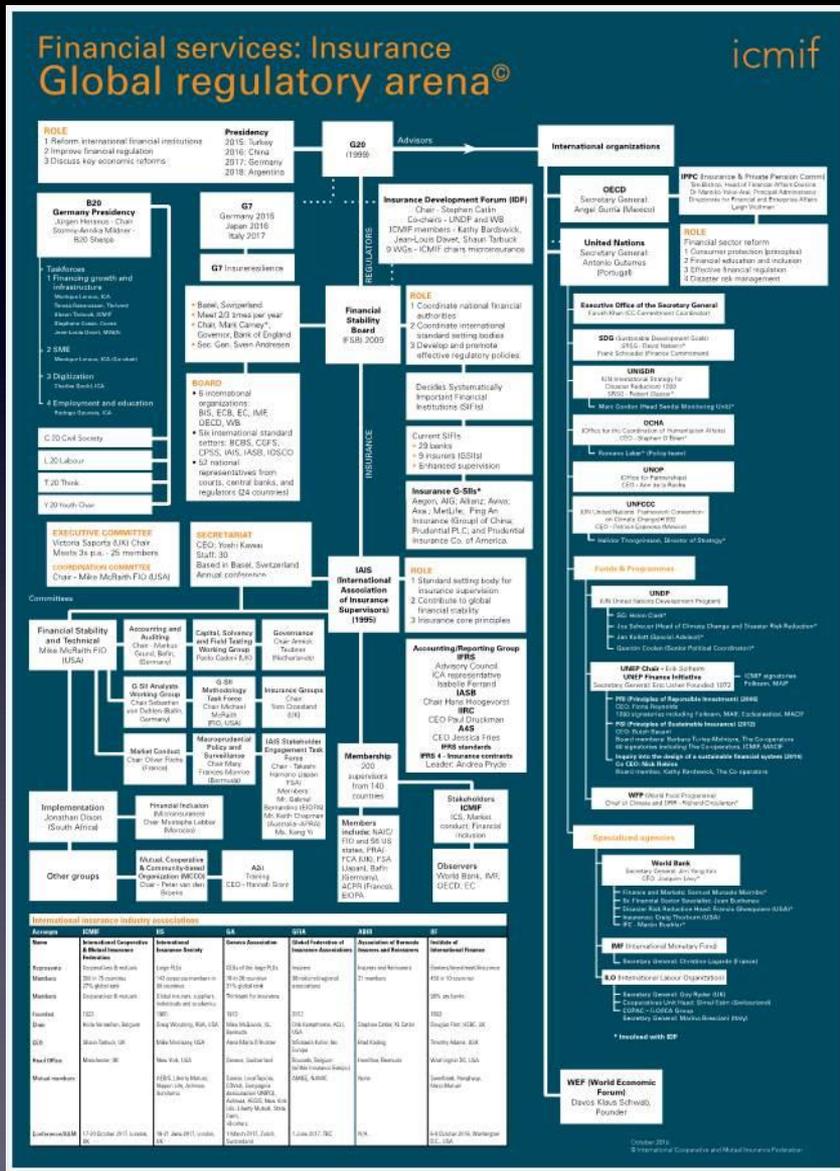


金融安定理事會 (FSB) の序列



国際金融規制の関連図

国際金融規制の環境とその主たる影響者について理解する必要



影響を及ぼすべき主要な組織

G20 (主要20カ国・地域)

各種助言組織

金融安定
理事会
(FSB)

国際連合
(UN)

O
E
C
D

Business 20
(B20)

Labour 20
(L20)

Youth 20
(Y20)

Civil Society
20 (C20)

Think 20
(T20)

国際機構 (IAIS)
保険 監督者

バーゼル銀行監督
委員会 (BCBS)

国際機構 (IOSCO)
証券 監督者

国連国際防災戦略
事務局 (UNISDR)

国連環境計画
(UNEP)

国連開発計画
(UNDP)

気候変動枠組条約
(UNFCCC)

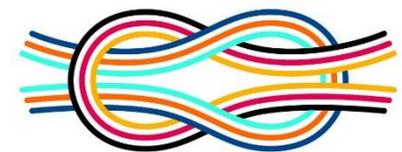
国連人道問題調整
事務所 (OCHA)

世界銀行

統合的汚染防止
管理指令 (IPPC)

ビジネス20 (B20)

- G20首脳に対する最大の影響力を持つ
- 年次の政策提言
- 二つのタスク・フォースに ICMIFと会員5組織 (Thrivent(米), Covéa(仏), MGEN(仏), Folksam(スウェーデン), Desjardins(加))が参加
- 複数の関与
- 過去2回の政策文書において「相互扶助保険組織」に関する文言を盛り込む



G20 GERMANY 2017
BUSINESS 20 DIALOGUE

2015年は世界的に 重要な出来事の多い年だった

- 国連気候変動サミット開催 - ニューヨーク, 2014年9月
- 「仙台防災枠組 2015 - 2030」の採択 (兵庫行動枠組の修正) - 仙台, 2015年3月
- 持続可能な開発のための資金に関する行動目標採択 - エチオピア・アディスアベバ, 2015年7月
- 新しい持続可能な開発目標 (SDGs) の採択 (2030年までの15年) - ニューヨーク, 2015年9月
- 国連気候変動枠組条約締結国会議 (COP21) - パリ, 2015年12月 (恒久的な協定)

世界的に重要性の高い 各種ワーキンググループ

- **B20 - ICMIF関係者6名が二つのタスクフォースに参画**
- **B20 金融による 成長支援タスクフォース (保険小グループ) にて ICMIFの5-5-5マイクロ・インシュランス開発戦略を事例報告**
- **保険開発フォーラム (IDF) - 国連/世界銀行/保険業界で創設**
 - **ICMIFグループから3名の理事枠**
 - **「マイクロ・インシュアランス」と「健康」の二つのワーキンググループの議長をICMIFが務める**
- **UNEP(国連環境計画) - 「持続可能な金融システム設計に関する研究」 - キャシー・バーズウィック氏*が理事**
 - * ICMIF会員であるコーポレーターズ社(カナダ)の前社長兼CEO
- **国連環境計画・金融イニシアチブ - 「持続可能な保険原則」 - ICMIFグループから理事とタスクフォース・メンバー**

保険開発フォーラム (IDF) の使命：

持続可能な成長と人間の尊厳をもたらす弾力的な
枠組み作りのためにリスクを理解する

保険開発フォーラム (IDF) の目的：

「ポスト2015年アジェンダ」として知られる国連の
持続可能な開発目標 (SDGs)、国連気候変動枠組
条約 (パリ協定)、仙台防災枠組が示した保険に関
連する課題・機会に対して、保険者のリスクに関
する専門知見を適用する

保険開発フォーラム(IDF) 理事会 保険業界関係 (2016年9月現在)

- スティーブン・カトリン (会長) XL Catlinグループ, 副会長
- キャシー・バーズウィック コーポレーターズ・グループ, 社長兼CEO (ICMIF会員)
- インガ・ビール ロイズ, CEO
- アルバート・ベンチモル AXIS Capital, 社長兼CEO
- グレゴリー・ケース エーオン, 社長兼CEO
- ジャン-ルイ・ダヴェ MGEN, CEO (ICMIF会員)
- デニス・デュベルヌ アクサ, 次席CEO
- ダニエル・グレーザー Marsh & McLennan Companies, 社長兼CEO
- ジョン・ヘイリー Willis Towers Watson, CEO
- デニス・ケスラー SCOR RE, 会長兼CEO
- クリスチャン・ムーメンタラー スイス・リー, CEO
- クリストファー・スウィフト ハートフォード生命保険, 会長兼CEO
- モーリス・タロック Aviva Global Insurance, 会長
- ニコラス・フォン・ボンハルト ミューニックリー, 会長
- (要確認) アリオンツおよび2名の発展途上国代表(相互扶助保険組織か?)

会合：2016年9月28日, ニューヨーク
2017年4月18日, ワシントンDC

保険開発フォーラム(IDF) 理事会 シビル・ソサイエティ(国連、世銀、NGO等)関係

- ジョアキン・レヴィ(副会長) 世界銀行, CFO
- ヘレン・クラーク(副会長) 国連開発計画, 総裁
- マーク・カーニー 金融安定理事会, 議長
- ロバート・グラッサー 国連国際防災戦略事務局, 国連事務総長特別代表(防災担当)
- デービッド・ナバロ 持続可能な開発目標(SDGs)担当, 国連事務総長特別代表
- スティーブン・オブライアン 人道問題担当国連事務次長

主要な影響者 (G20を除く) は全て
保険開発フォーラム理事会に加わっています

保険開発フォーラム(IDF)組織機構

マネジメントグループ

ICMIF, 事務局長

国際保険学会(IIS),
CEO

ジュネーブ協会,
CEO

バミューダ保険協会
(ABIR), CEO

運営委員会議長

実行委員会議長

世界銀行代表

国連開発計画代表

ワーキンググループ

1. レジリエンス(逆境への対応・克服能力)モデル化と現状把握
2. 保険規制とレジリエンス政策
3. マイクロ・インシュランス(ICMIF)
4. 国および公的セクターのスキームへの技術的助言制度
5. レジリエンス投資とインフラストラクチャー
6. 保険ならびに人道主義のシステム
7. リスクと保険に関する公式な指標・測定方法
8. 教育研修とコミュニケーション
9. 健康保険(ICMIF)
10. 生命保険

実行委員会

- ・ 議長 - Rowan Douglas氏
- ・ 各ワーキンググループ議長 (10名)
- ・ 保険業界およびシビル・ソサイエティ組織(国連、世銀、NGOなど)から選ばれた専門家

保険開発フォーラム(IDF) マイクロ・インシュランス ワーキンググループ

- 共同議長: ICMIF事務局長、Blue Marble Microinsurance(大手保険8社のコンソーシアム)・CEO
- レジリエンス(逆境への対応・克服能力)のための保険を2021年までに1億人に提供する目標 (G7)
- メンバー35名: うち保険業界 18人、シビル・ソサイエティ 17人
- 保険開発フォーラム(IDF) の2021年到達目標(30プロジェクト・25か国・85百万人)に向け、5-5-5を含む各プロジェクト実施状況を今年3月末までに報告
- シビル・ソサイエティからの資金援助獲得および相互扶助マイクロ・インシュランスの確固たる技術支援センター設置を目標とする
- 「IDFマイクロ・インシュランス・デー」を10月16日にロンドンで実施

保険監督者国際機構(IAIS)

- 新事務局長 **Jonathan Dixon** (南アフリカ)
- 議長 **Victoria Saporta** (ICMIF総会スピーカー)
- 関係者が参画するプログラム
- 年次総会 (マレーシア・クアラルンプール)
- **G-SII**(グローバルにシステム上重要な保険会社)規制の大規模な相互扶助保険組織への影響
- 「ICMIFによる規制監督者向け相互扶助組織による保険ガイド」を用いた研修支援

保険監督者国際機構(IAIS)と 相互扶助組織/協同組合/地域に根差した組織 (MCCO)

保険市場へのアクセス向上における
相互扶助組織/協同組合/地域に根差した組織に関する
規制および監督の適用文書

*Application Paper on the Regulation and Supervision of
Mutuals, Cooperatives and Community-based Organisations in
Increasing Access to Insurance Markets.*

IAIS案、2016年5月26日付

MCCO適用文書の背景 / 目的

- 2006年以降で、4つの論点書と1つの適用文書 (ICMIF からも起草委員会に参加)
- 政策立案者(規制監督者)に対し、「保険市場へのアクセス向上」においてMCCOが果たしうる役割についての認識を高める
- MCCOに対して「保険基本原則(ICP)」をバランスをとりながら適用するにあたっての「ガイドブック」
- MCCOにはあらゆる形態の相互扶助組織を含む
- MCCOの際立った特徴：会員による所有 + 民主的な運営原則

MCCO適用文書 – まとめ

- マイクロ・インシュランスに焦点を当てており、当初は望ましい内容ではなかった
- 最後に変更が加えられ全てのMCCOが対象とされた
- 多くのICMIF会員団体が回答を求められた
- 草案はより望ましい形に修正された
- ガイダンス文書の修正に影響を及ぼし続ける余地
- MCCOに関する認識向上をもたらした
- 現状はIAIS理事会の承認待ちの段階

国際的政策提言ハブ (IAH)

認識・参画・行動

- 国際的政策提言のあらゆる分野に対する助言グループ
- 目的：
 - 主張する立場の確立
 - 相互扶助組織としての立場の支持・強化
 - 主要な論点を会員に情報提供・啓蒙
 - 会員の参加促進
- ワーキンググループは運営要綱と担当スタッフを持つ
- 各ワーキンググループは10-25名で構成
- 既存の地域ワーキンググループからも参加
- 定期的(四半期)な電話での会議

国際的政策提言ハブ (IAH)



国際的政策提言ハブ (IAH) 論点 (1)



国際的政策提言ハブ (IAH) 論点 (2)



欧州における政策提言

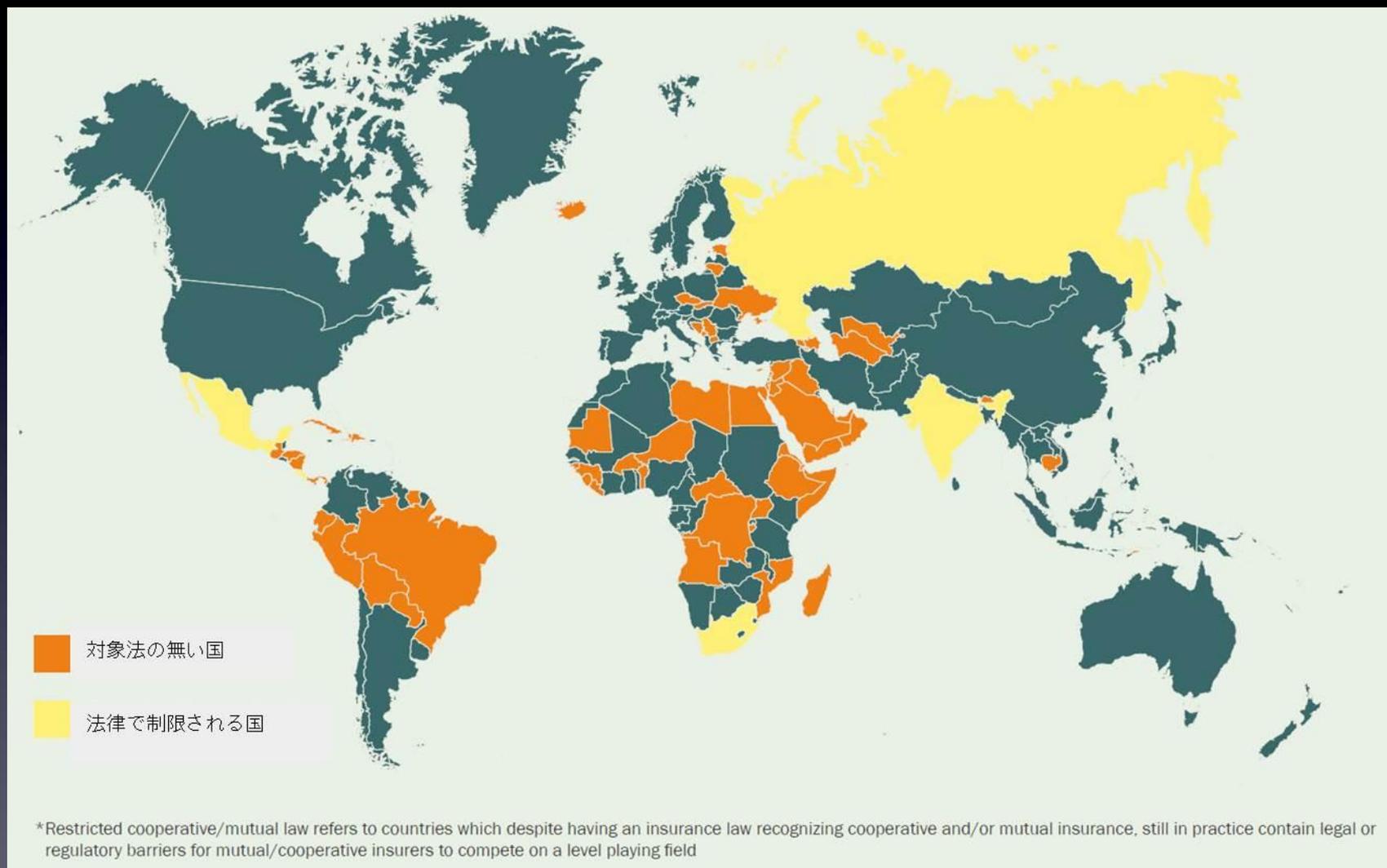
AMICE

- ソルベンシーII
- 個人投資家向けの保険ベース パッケージ型投資金融商品 (PRIIP's)
- EU保険販売業務指令 (IDD)
- 個人向け金融サービス行動計画
- 主要なステークホルダー：欧州保険年金監督機構 (EIOPA), 欧州委員会, 欧州議会

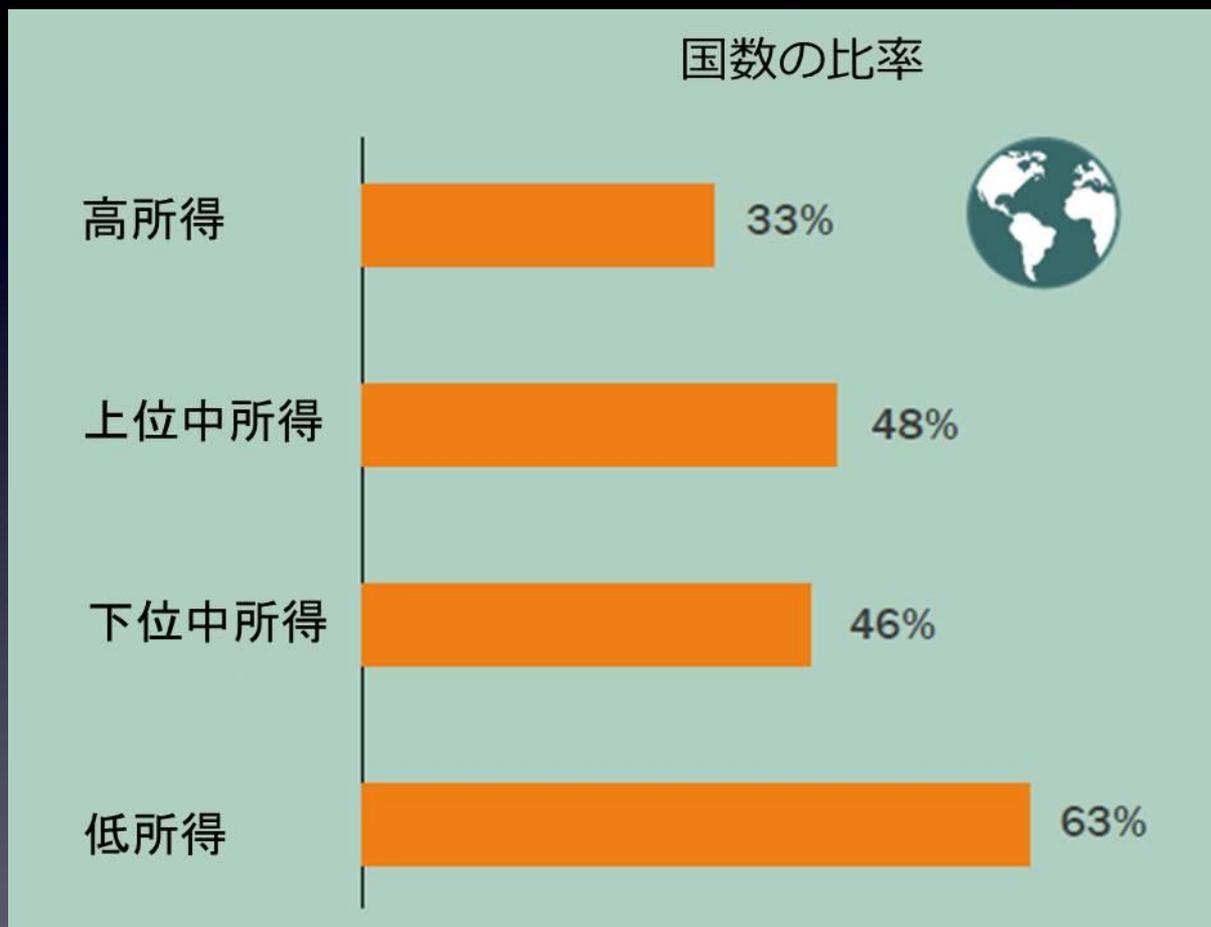
世界における格差・不平等

- ✓ 相互扶助組織の保険市場シェア 27%
- ✓ 先進国における保険市場シェア 31%
- ✓ しかし、発展途上国ではたった4%...
- ✓ 実に相互扶助保険組織がない国が45%

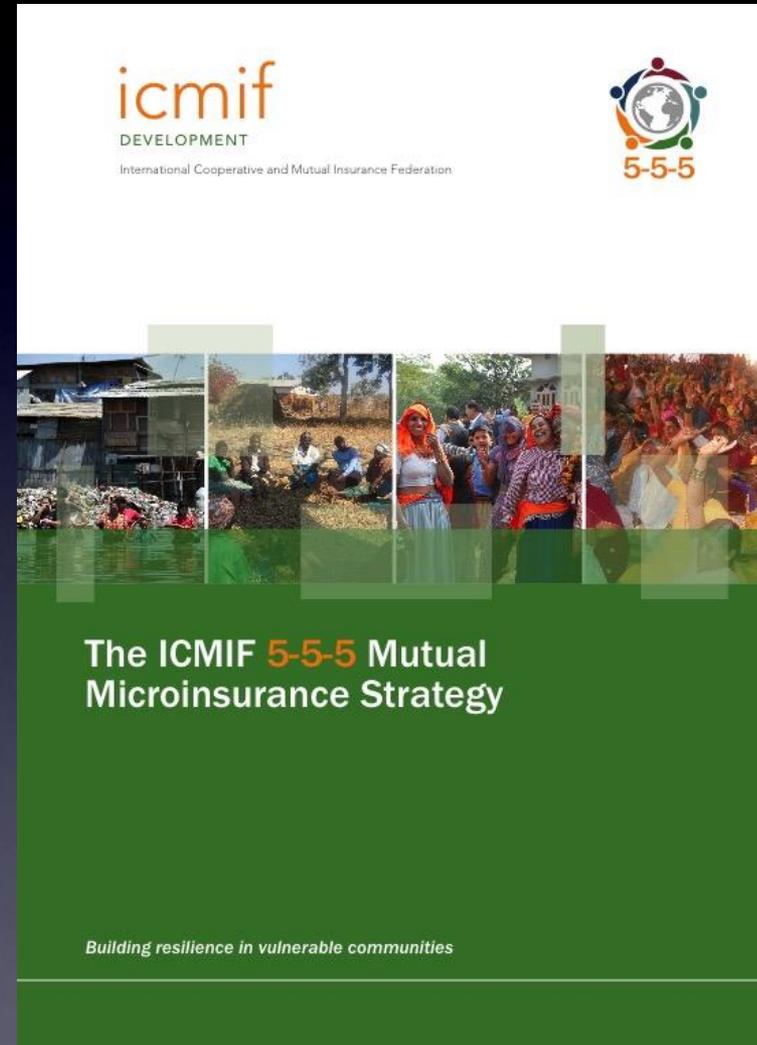
協同組合/相互扶助組織による保険は 世界の**45%**の国では法的に認められていない



相互扶助組織/協同組合による保険 を認める法律のない国 (国別所得分類*)



ICMIF 5-5-5 マイクロ・イン シュランス戦略



ICMIF 5-5-5 マイクロインシュランス戦略

5年間で

5つの開発途上国で
マイクロインシュラ
ンスを発展させ

5百万の低所得世
帯に普及させる

対象となる5か国

インド

人口: 1,236,686,732
マイクロインシュランス加入率: 9.22%
貧困層比率: 23.6%

フィリピン

人口: 96,706,764
マイクロインシュランス加入率: 21.35%
貧困層比率: 19%

コロンビア

人口: 48,321,405
マイクロインシュランス加入率: 14.63%
貧困層比率: 5.6%

ケニア

人口: 43,178,141
マイクロインシュランス加入率: 3.19%
貧困層比率: 43.4%

スリランカ

人口: 20,328,000
マイクロインシュランス加入率: 0.34%
貧困層比率: 4.1%



5-5-5の対象者は？

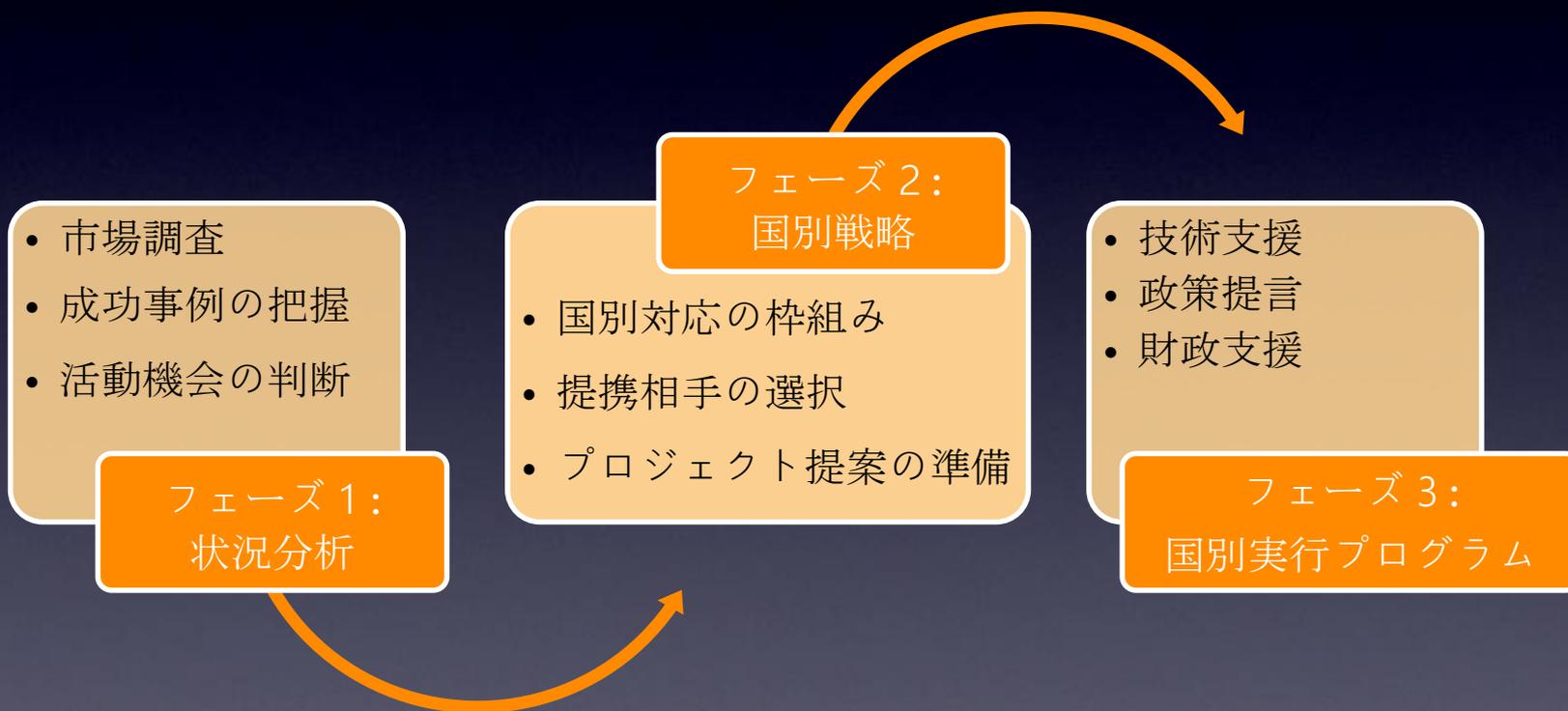


- 1日の所得が2～10米ドルの最貧層の人たち
- 気候変動や災害に最も脆弱な地域
- 僻地の女性や都市のスラム街の人たちが主な契約者



CARD MBAの職員が、130億米ドルの被害をもたらした台風ヨランダによって家を吹き飛ばされた加入者と損害確認をしている場面。迅速に支払われた保険金は加入者の家と暮らしの再建に役立てられました。
(フィリピン、Eastern Samar)

効果に焦点をあてた3段階アプローチ





ICMIF会員は5-5-5にどのように参画できる？

ICMIF会員はどうすれば**5-5-5**を 支援できる？



- **財政支援:** 寄付金として年度毎に支援ができます
- **技術支援:** 会員団体の職員が現地に出向して、被支援団体役職員の教育研修、運営システムの改善、加入者教育、マーケティング、商品開発、リスク管理、効果測定、政策提言などの技術支援を行います

技術支援提供のメリット



次のような形で双方にメリットがあります：

- 職員が意義あるプロジェクトに関わることによりプロとして成長する機会
- 高いモチベーションと忠誠心を備えた職員を得て、ステークホルダーにその価値を示す機会

アクチュアリー資格保有者であるコンサルタント **James McPherson**氏は2016年8月にインドを訪れ、同地のプロジェクトの第1フェーズ、第2フェーズの技術支援を行いました。



James氏による技術支援訪問にてインドDHAN基金で事業計画について議論している場面

The Co-operators (カナダ)



“The Co-operatorsは喜んで、「ICMIF 5-5-5 マイクロ・インシュランス戦略」のインド・プロジェクトを技術面および財政面(当初は10万米ドル)で支援します。
我々は、ICMIFと長期にわたる公式なパートナーとなっていきたいと考えており、これは未来の協同組合/相互扶助組織のリーダーを育成する稀有な機会であると考えます。
また我々が資金面・技術面で支援することで、他の団体もそれに続いてくれることを期待しています。

Rob Wesseling,
The Co-operators社 上級副社長(損害保険部門担当)
The Sovereign General Insurance Company社 (カナダ) 最高執行責任者

現時点で5-5-5に参画している会員団体

- インド (3 プロジェクト)
 - **The Co-operators**, カナダ
 - **LF**, スウェーデン
 - **Achmea**, オランダ
 - **SimplyHealth**, 英国
- フィリピン
 - **Folksam**, スウェーデン
 - **CARD MRI**, フィリピン
- ケニア (2 プロジェクト)
 - **Thrivent**, 米国
 - **P&V**, ベルギー
- スリランカ
- コロンビア

5-5-5 に対する世界的認識

- 2015年12月パリのCOP21にて発表
- 中国で開催されたB20にて、金融による経済成長支援タスクフォースの最終勧告を事例報告
- 保険開発フォーラム(IDF)のマイクロ・インシュランス・ワーキンググループによる解決策の中核
- 英国国際開発省(DFID)の技術助言制度のフェーズ2

ICMIF 2019年 - 2022年

- 革命 (Revolution) ではなく進化 (Evolution)
- CEO インタビューにより新戦略を伝える
- 欧州地域の新会員団体の参加促進
- 会員拡大の取り組み継続
- 総会をはじめとする会員間の交流機会の提供
- インフルエンスの活動を「認知」から「行動」に移行
- ICMIFが重要で尊敬される組織であり続ける
- ICMIF100周年行事 (2022年4月25日、ローマ)を記憶に残るものにする